

フクジュソウの群落続く霊仙(りょうぜん)の尾根

4月11日(土)オオヤマレンゲ山の会第249回例会登山で滋賀県北部の霊仙山に登った。

天理を6時40分に出発。霊仙山麓の落合(廃村になっている)に車を置かせてもらって、登山開始。大洞谷の川沿いの道は涼しく、ミヤマカタバミ、ヤマエンゴサクなどが花をみせている。

やがて川から離れて急登を登り、汗拭き峠着。フデリンドウが可愛い。道は雑木林の中をうねりながら登っていく。絶快晴、雲ひとつ無い空、日差しを照り返しながらそよぐ新緑の木々、それだけ



でも心浮き立つのに、足元を飾る小さい花々、鳥たちの囀り、文字通り山笑うなのだ。

フクジュソウ

林が切れ、開けた場所からは琵琶湖が見えた。汗ばんだ肌に風が涼しい。なだらかな起伏を見せる山稜部、そこをえぐる谷々は所々に残雪を光らせて、まだ冬枯れの山肌にアクセントをつけている。

ヒトリシズカがひっそりと咲いているのをカメラに収めていると、ヒロハノアマナが次々と姿を現してきた。この花もまた笹原の中に隠れるように

↓フデリンドウ

咲いている

のだ。 **↑ミヤマカタバミ**

山頂では多くの登山者が思い思いに弁当をひろげている。足元の石灰岩の石、岩の間には点々とフクジュソウが咲いている。

下山路に用いた西南尾根は石灰岩の露出

した歩きにくい道、だが **←ヒトリシズカ** その北



側の斜面にはフクジュソウの群落が続いていて、参

加者が感嘆の声をあげ続ける。

笹峠に下る急坂にはスハマソウが多く、また

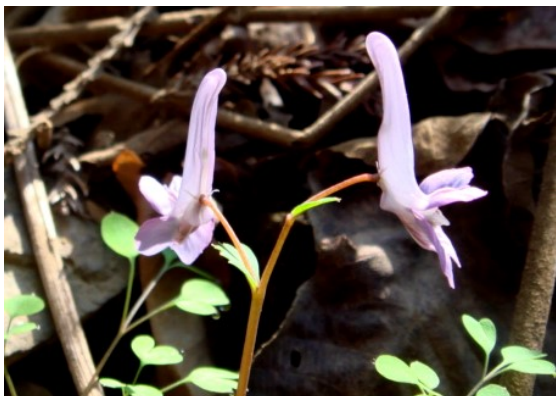
キバナノアマナが鮮やかな黄色の花

をひろげている。石川県以北に咲くナニワズらしき花があるが、新潟や佐渡でのあの黄金色の輝きに欠け、どこかく

←ヤマエンゴサク すんでいる。別種だろうか。いつも見かけるクサボケが皆無なの

←キバナノアマナ も気になった。

スハマソウ (ユキワリソウとも呼ばれる) →



↑ヒロハアマナ



←ミヤマハコベ

ニ上山だより

利用しやすくなった水飲み場

祐泉寺から馬の背への道にある水飲み場の一つは足場が悪く、「蛇が出そうで利用しにくい」との高齢者の声があり、地元の松下さんや香芝の河島さんらが、倒木を利用して足場を設け、竹筒で水を引いて、誰でも利用できる水飲み場に改善しました(写真右上)。岩屋峠に近い水場も同様の工事がされ(写真右下)、利用者に喜ばれています。ご苦労様でした。

↓ミツバツツジ (ニ上山で)

